

## 政策評価調書(28年度実績)

政策名	生涯にわたる力と意欲を高める「教育県大分」の創造	政策コード	Ⅲ-1	関係部局名	教育庁、企画振興部、福祉保健部、生活環境部、商工労働部、警察本部
-----	--------------------------	-------	-----	-------	----------------------------------

### 【Ⅰ. 政策の概要】

未来を切り拓く力と意欲を身に付けさせる教育の推進や、世界に通用する「グローバル人材」の育成、いじめ・不登校対策の充実・強化、学校・家庭・地域との協働など学校教育の充実と生涯を通じた学びを支援するとともに、青少年の健全育成や多様な行政課題の解決に向けた県内大学との連携などを進める。

### 【Ⅲ. 政策を構成する施策の評価結果】

施策名		指標評価	総合評価
1	子どもの力と意欲を伸ばす学校教育の推進	達成	A
2	グローバル社会を生きるために必要な「総合力」の育成	達成	A
3	安全・安心な教育環境の確保	達成	A
4	信頼される学校づくりの推進	達成	A
5	「知(地)の拠点」としての大学等との連携	達成	A
6	青少年の健全育成	達成	A
7	変化の激しい時代を生き抜く生涯を通じた学びの支援	達成	A

### 【Ⅴ. 政策を取り巻く社会経済情勢・今後の動向】

H29年3月に告示された新たな学習指導要領では、児童生徒などの主体的・対話的で深い学びを実現する「アクティブ・ラーニング」の視点から授業改善を図ることとされ、小学校では3・4年で「外国語活動の導入」、5・6年で「英語の教科化」、中学校では「英語による英語授業の実施」、高校では「歴史総合」や「公共」等の必修化、また、小・中・高等学校を通じて情報活用能力を体系的に育成する観点から、「小学校におけるプログラミング教育の実施」などが新たな学習指導要領に盛り込まれた。こうした国の動向等を踏まえ、「全国に誇れる教育水準」の達成を最重要目標に掲げ、全ての子どもたちに未来を切り拓く力と意欲を身に付けさせる教育を推進していく必要がある。

変化の激しい時代を生きる全ての子どもたちに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性」の三つの柱(育成を目指す資質・能力)をバランスよく育成することが重要である。児童生徒の学力は、習熟度に応じた指導の充実や学びに向かう力を育成する教育活動の充実等が図られたことにより、小・中ともにほぼ目標値を達成したが、中学校の学力はまだ全国平均に届いていないため、今後も取り組みの継続・強化が必要である。児童生徒の体力については、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、体力合計点による全国順位が小・中ともに過去最高の結果となった。今後も体力向上に資するため、学校・家庭生活を通じた運動の習慣化・日常化が必要である。

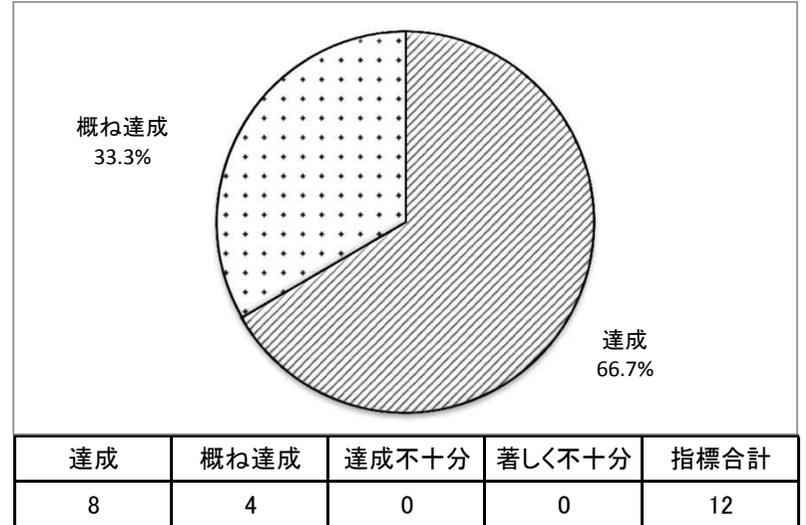
グローバル社会を生きるために必要な「総合力」を育成するためには、子どもの海外への挑戦意欲を高めるとともに、グローバルに活躍する人材に触れる機会を充実させることが必要である。

SNSの普及に伴い、「ネットいじめ」が問題化している。いじめは時間の経過とともに複雑化・深刻化するため、「いじめ防止基本方針」に基づき、学校や関係機関・団体が連携し、いじめの早期発見・早期対応の徹底が必要である。また、小・中学校の不登校児童生徒数は高止まりの状況が続いており、不登校の原因や背景が複雑・多様化していることから、福祉、医療等の関係機関・団体とも連携した組織的な対応の強化が求められている。

今後10年間で教職員の約半数が定年退職を迎えるため、「教育県大分」を担う人材の確保・育成が必要である。地域の学校が地域に信頼され、選ばれる学校となるため、地域のニーズを踏まえた特色ある高等学校づくりを推進する必要がある。

変化の激しい時代において、県民の学習ニーズが多様化・高度化していることから、ライフステージに応じた多様な学習機会の提供が必要である。

### 【Ⅱ. 構成施策の目標指標の達成状況】



### 【Ⅳ. 評価が著しく不十分となった指標】

指標名	達成率
該当なし	—